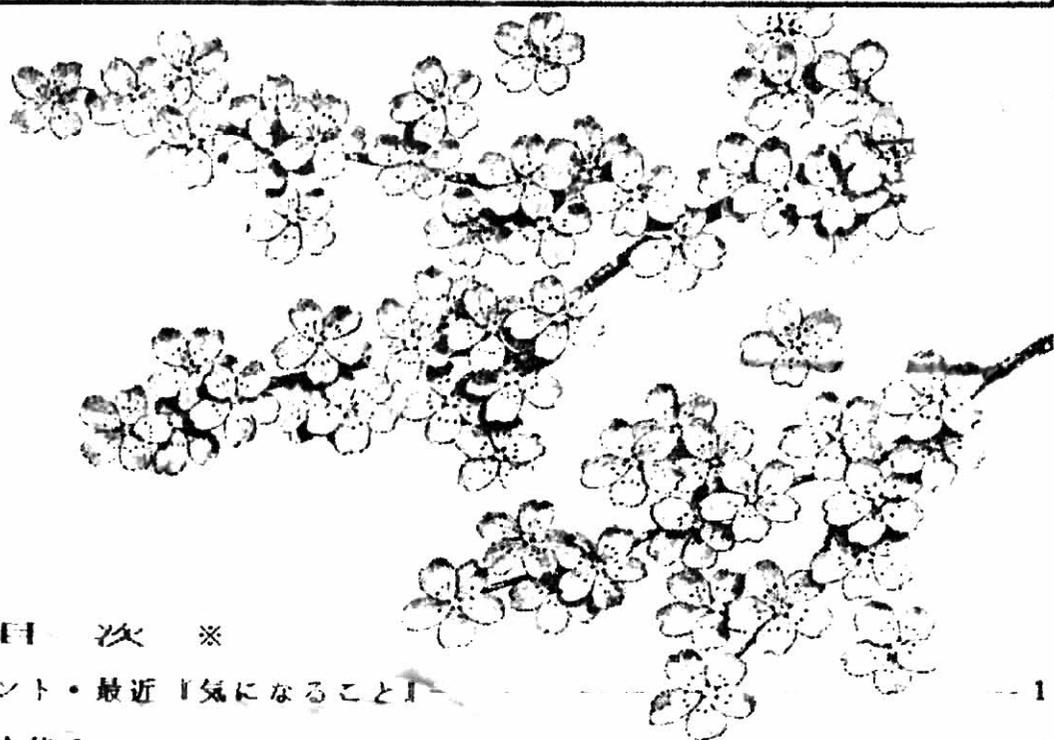


# たんぽぽ

発行日  
第 94 号  
62年2月号  
編集発行  
釧路地方腎友会  
釧路市新富町一番七号  
林田クリニック内



## ※ 目 次 ※

シャント・最近「気になること」	1
新年会終る	2
日帰り・温泉レク	2
年費印刷取扱の結果報告	3・4
国会請願署名の結果報告	5・6
アンケートの実施	5
各種相談は顧問へ	6
伊藤道議の御支援を	7
近況報告・早坂氏から	7・8・9・10
「病は気から」協立・竹内 昇	11・12
会員の動向	13

透析治療は日進月歩であります。十数年前とは比較にならないほど変わってきた。透析機械・透析方法、また食事の面でも、今では健康者なみの生活を送れるようになった。

釧路地方腎友会々員の中でも、普通に働いている人、登山をする人（腎友会で年1回実施している）、遠方に旅行する人、外国へも行って来た人までおり、透析患者だからといって、社会生活に何が支障があるのか考えさせられる時があります。これは、皆さんが十分な健康管理をし、体調が良くなり自分のことは自分で出来る、という良い結果だからではないでしょうか。これは大変良いことだと思います。

さて、数年前から全国的な規模で、腎移植に関する普及啓蒙と、死後の腎提供を訴える全国・全道一斉の街頭キャンペーンを実施しています。ただその時の参加者が固定化され、移植の要望が強いであろう若い人の参加が少ないことが気になります。

この釧路で将来移植が出来、そして透析の苦しみから一人でも多くの人が出出来ることを願い、腎友会ではこの運動を進めています。将来移植を希望する人は、是非このような底辺の活動に参加してほしいものと思います。

私共は、所詮透析をしなければ生きては行けない身体になっています。『透析をしなくても良い』というのは、腎移植をする以外に方法はないのであります。そのためにも街頭キャンペーンを行ない、市民の皆さんに腎移植アレルギーを取払ってもらおうよう訴えて、

腎移植の早期実現をはかろうとしているのであります。

またこれと同じように、国会請願署名についても気になることがあります。

署名用紙の配布枚数に対し、回収枚数が約6割、非常に残念な結果で終わりました。

この請願署名を国会に出したからといって、国の方策がすぐ変わるものではありません。しかし、『このような要望』が『これだけの人』によりあることを『何回』も訴えることで、諸要望が実現されるのではないのでしょうか。『他人がやるから良い』とか『自分一人位は良い』という考えの人がいれば、悪い結果となります。

また、病院の食事についても不満を云っている人もいるし、自分の権利は主張するが、義務は履行しないという風潮があるようにも思い、何か不自然な気がしてなりません。

医療条件・福祉対策・教育問題など、透析患者の周辺には色々な問題点・改善をはかなければならない課題があります。これらを一つ一つ解決するために、腎友会それぞれの機関（全国・全道・地方）で、毎年方針を立てて活動を行なっています。釧路地方腎友会々員の皆さんは、健康者なみの社会人であることと、透析患者であるということを充分認識し、腎友会活動に御協力御支援を下さいますよう、お願い申し上げます。

シャント



## 新 年 会 終 る

鋼腎会の今年の新年会は、晴天に恵まれた1月24日、オリエンタルホテルの6階全フロアを借切って、会員家族と伊藤道議御夫妻・高橋市議の参加（全員で66名）で行なわれました。

今年の新年会は、橋本幹事さんほかの発案で、今迄とは様相も新たに、ステーキのフルコースというセットで行なわれました。参加者の中には、フルコースをこれまで食べたことのない人もいたのではないのでしょうか………？

御多忙中にもかかわらず参加して下さった伊藤道議のあいさつの中で、皆さんの要望の強かった腎バンク・腎移植センターが北海道に設置させることが出来ました。

先日、その腎移植センターを国会議員の高桑先生（お医者さん）と一緒に視察に行き、その実態を見聞した結果、鋼路にも是非サブセンターの必要性を痛感し、移植センターの先生方、道の理事者にもそのことを強く要望してきたことを報告されておりました。そして、今後は地元でも腎移植を行なうことが出来るよう、体制的な整備を含めやらなければ

ならないことがあり、高橋市議とも協力して一つ一つ解決して行く決意を述べておられました。

さらに、今年は自分として4回目の道議改選期であり、腎センターほかの諸課題解決のため、是非とも腎友会々員皆さんの御支援を、特にお願いされておりました。

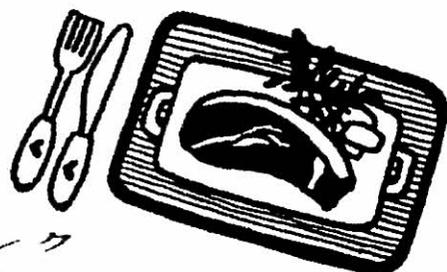
高橋市議は、国では福祉予算を削っているが、当鋼路市においては、そのような事のないようにする。また、今年は難病連の全道集会在鋼路市で開催されるので、その予算・実施についての支援を約束していました（過日、全道集会の補助金陳情の際に同席し、補助について助言して下さいました）。

食事後の腎友会恒例の余興は、長岡・金井・橋本ほかの皆さんにより、いつもながら楽しいゲームなどが行なわれ、伊藤道議から差入れのあった特別賞を含め、数多くの景品を用意し、ゲームも参加者全員で行ない、制限時間ギリギリまで楽しい一時を過ごし、一人でいくつも景品を持帰った人がおりました。



日 帰 り ・ 温 泉 レ ク

今年度計画している最後のレクリエーション行事として、日帰り旅行の計画があります。これから役員により、『いつ』『どこに』『どんな方法で』実施するか検討に入りますが、会員皆さんの御要望などがありましたら、各病院役員の方に話しておいてください。



日帰りでありますから、あまり遠方に行けませんので、行く場所も絞られてくると思います。

今年度最後のレクです。会員はもとより、家族の皆さん共々参加していただき、普段の疲れをユックリとってこようではありませんか。

鋼路地方腎友会の活動資金確保のため、例年実施してきた年賀状印刷の取扱いは、昨年も皆様の協力により無事終了しました。

昨年は、鋼路地方腎友会の10周年記念式典と重複したため、スタートが遅れ、会員皆さんに対する連絡事項などが後手々々となり、大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫びもうしあげます。しかし、皆さんの奮闘により次のような結果となりましたので、表にてご報告いたします。

今回は、前年と比較すると、厚岸においては前年の約2倍の成果をおさめ、大変努力した結果が出ているものと思います。しかし、厚岸以外は全病院でマイナスとなり、スタートのつまずきがひびき、全体で前年より約500件のマイナスとなりました。

最終的に前年と比較しますと、印刷代金が約120万円の減、それにともなって腎友会の利益についても約25万円の減となりました。しかし、今後の腎友会行事における各レクリエーションなどへの助成をするための貴重な財源となりました。

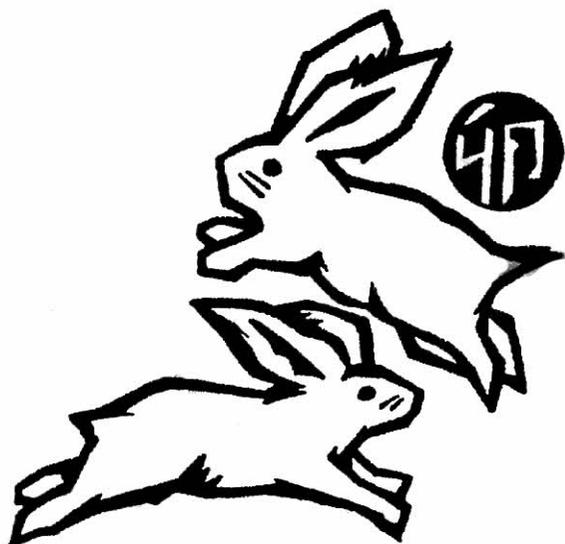
取り扱いに協力下さいました会員の数は、鋼路の市立・林田・日赤・協立の4病院で82名にものぼり、4施設の会員数の約6割の方々が、そして厚岸・根室の会員の方を含めると、約100名の方々により年賀状取扱に取り組んでくれていることとなります。

この取り組みには、例年のとおり顧問の伊藤道義・高橋市議も各会社関係にセールスとしてまわり、5本の指に入るだけ多くの件数を取り扱って下さり、腎友会の貴重な財源確

保に協力して下さっていることを報告しておきます。

それぞれ扱って下さった会員の方には、活動費として腎友会利益の2割を還元致しました。

この活動費について、一部の方より『少なすぎる』という御意見もあるようですが、これ迄の経過、そして年賀取り扱いの主旨は何だったのか……。また、これらの資金によって、腎友会の年間におけるレクリエーション行事に対する助成に、総額で約50万円は支出することになっております。これらのことを総合的に判断して、総会の折にでも、皆さん全体の御意見を出していただきたいと思っております。



昭和61年 年度取扱集計表

区分	立・持・毛別			色別			計上	金額		計上
	立替	持込	毛中	1色	2色	白紙		用紙代	印刷代	
市立	491 43520	155 15322	19 2110	463 42880	202 17992	80	665 60952	1772450	1541320	3313770
林田	677 55352	180 17343	39 5615	554 50351	342 27653	306	896 78310	2314530	2118880	4433410
H赤	121 9380	24 2180	5 740	85 6920	85 5350	30	150 12300	383720	353400	737120
協立	478 49557	161 20910	38 4440	486 53272	191 21635	0	677 74907	2104620	1696310	3800930
計上	1767 157809	520 55755	101 12905	1588 153423	800 72630	416	2388 226469	6575320	5709910	12285230
厚岸	120 10985	28 2602	2 250	100 8850	50 4947	40	150 13837	444300	364660	808960
根室	318 24463	35 3694	19 2140	246 20388	126 9909	0	372 30297	1049540	859750	1909290
總計	2205 19257	583 62051	122 15295	1934 182881	978 87486	456	2910 270603	8089160	6934320	15003480

表中・上段は取扱件数、下段はハガキ枚数を表わしています。

## 国会請願署名の結果報告

昨年末に実施した、私共の全腎協が主唱するものと、難病連が各患者団体と共同で実施した国会請願署名に協力下さいまして大変ありがとうございました。

今、政府自民党は、減税どころか、防衛費の1%枠突破、売上税新設、まる優廃止など色々な方法で国民に大きな負担をはかろうとしております。

このような時に、私共の一番重要な医療・福祉予算に対する動向が非常に不安に思っているのは、私だけでしょうか……。

札幌で生活保護を受けられなかった主婦が「餓死」したという事件がありました。これも詳細はわかりませんが、国による各種補助率の削減により、生活保護を認定すると各市町村の持出が多くなるため、支給を厳しくした結果の事件ではないでしょうか。

このような状況の中で、全国で約6万人もいる透析患者が、これからも安心して透析を受け続けられるのでしょうか……。

診療点数が引き下げられたり、福祉予算が削減されるようなことがあれば、直接・間接的に私共の医療条件に悪影響を与えます。

このようなことにならないためにも、私共のささやかな抵抗または運動として、例年、国会請願署名活動を実施していることを、透析患者である腎友会々員のあなたは充分お理解しているものと思います。

今回の署名結果を報告しますと、約150名の会員に、一人当たり全腎協分が2枚、難病連分が1枚の割当てで配分したのですが、結果は次のとおりとなっています。



### アンケートの実施

釧路市内に在住する透析患者さんに、腎友会では年2回にわけて通院交通費を支給しています。これを支給するにあたって、会員の中から支給対象者について、『非会員への支給は疑問』という御意見が出ています。

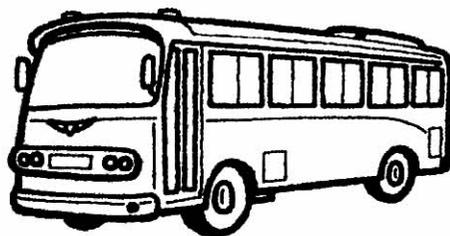
この通院交通費については、腎友会に助成されているものであり、この運用については腎友会にまかされているわけであり、皆さんの考え方を優先するわけであります。

そこで、皆さんの御意見を掌握するために、アンケートにより皆さんの考え方を調査した

いと思います。

その結果により、現在の支給規則の改正について検討したいと思います。

早急にアンケート調査表を作成して皆さんに配布しますので、皆さんの率直な考えを記入してほしいと思います。



	全腎協	難病連	会員数
市立	62	33	55
日赤	17	10	17
林田	50	25	40
協立	21	19	15
労災	0	0	2
厚岸	16	8	9
根室	8	4	8
計	174	99	146

となり、一人で割当以上を消化した会員の方もいますので、会員で約半分の人が署名に協力されていないと思います。このような実態ですと、半数の人が医療費なり福祉予算などの改悪がされても良い、というようにもとれますが、いかがなものでしょうか……？。

この国会請願署名活動は、一人の人が数多くの署名を集めてくるより、数多くの人が署名に回ってくれたほうが、市の広い市民の方々に透析患者の実態・状況を知っていただくこ

ともなり、大きな意義があるのではないのでしょうか。せめて、この国会請願署名だけは、腎友会々員全員が協力し合って100%実現をさせたいものと思います。

この署名に募金がついていますが、募金を強要しているわけでもないし、どうしてもしなければならぬというものでもありません。署名だけで良いのです。今年の年末にも実施されると思いますので、今年こそは100%実現に向けて、宜しく御協力をお願い致します。

なお、最後になりましたが、貴重な活動資金としての募金が、全腎協分として44885円、難病連分として14250円の計59135円が御寄付されました。この募金は、それぞれの配分率によって釧路・北海道・全国で今回の国会請願にかかる経費と、腎友会の活動資金として使わせていただきます。

募金に協力下さいました皆様に、宜しくお伝え下さるようお願い致します。

## 各種相談は 職員 問

会員の皆さん、新聞・テレビなどで大きく報道されているので、すでに御承知の事と思いますが、生活保護の非認定により非常に悲惨な事件が札幌で発生しました。

私共、腎友会の皆さんではどうでしょうか……。人で悩み、苦しんでいる人はいないでしょうか……。

あなたの生活のこと、職場のこと、色々な悩み事についての御相談を、私共の腎友会顧問に相談してはいかがでしょうか。

会員皆様の手足となって悩み事の処理にあたっていただけるものとおもいます。遠慮しないで御相談して下さい。



相談は

電話番号

0154-25-5050

0154-51-2306へ



## 伊藤道議の御支援を

鋼路地方腎友会の顧問である道議会議員の伊藤武一氏は、今年4月に行なわれる統一地方選において、4度目の挑戦をすることになっております。

鋼路地方腎友会と伊藤道議の関わりあいには

- ① 鋼路地方腎友会結成以来 (昭和51年、15名当時)、顧問として腎友会の面倒をみて下さっている事。
  - ② お付き合いが長いから、数多くいる道議会議員の中で、透析患者の実態を誰よりも一番良く把握している事。
  - ③ 透析患者の実態を良く知っているから、相談などするにも認識が早い事。
  - ④ 要望事項などの処理が早い事。
- など色々あります。

過去において、年に何回となく要望事項の相談を受けてもらっています。また、腎友会々員の個人的なことまでも解決して下さい、大変助かった人もおります。

このように伊藤道議は、誰とでも気軽に話し気楽に話せる人です。

今後、鋼路地方に腎移植を行なうためのサンプラーを是非実現させなければならず、透析患者に精通している伊藤武一氏を再度道議会の場に送らなければなりません。

そのためにも、腎友会々員皆さんはじめ、親戚・友人・知人を含めて協力を宜しくお願い申し上げます。

(7)

お元気でしょうか。

私も元気で暮しております。一年前、ここに来たとき、気候になれず、食事も合わず、娘の病気・孫の子守と大変な日々を送りました。ヘマトも下る一方、輸血も再三でした。

今では孫も15Kg、力の無い私にはこたえます。知恵も出てきて、コンピューターのごとく物を覚え、得意になって良い事、悪い事、区別つかないまま喋ると言うより『さえずる』と言った方が良いかも知れません。ヘマトも長いことかかりましたが21%を維持しております。今年はなんとか25%まで持っていきたいものと思っています。

いつも『たんちょう』送って戴きありがとうございます。何より楽しみにしております。今回は、正月に『善通寺』えお参りに行ってきましたので、『弘法大師』について書いてみました。

報告書のような文になってしまいましたが、悪しからず。

娘にワープロを教えてもらいながら作ったものです。ほんの一寸動かす事を覚えた程度です。脱字などありましたらよろしくお願い致します。

お元気で さようなら……。

今回は弘法大師についてお話ししましょう。

### 【普通寺】（父の名を取ってつけた）

八十八箇所巡りの総本山で弘法大師の生まれた所です。普通寺駅より1キロメートル程の所にあります。（香川県普通寺市、人口3万6千の街です）お寺の門には弘法大師誕生所、屏風浦（びょうぶがうら）と記されてあります。門を入ってすぐ左には、すほらしい楠の老木があります。これは大師が生まれる前からあるものだそうです。

### 【弘法大師の誕生】

今から千二百年の昔、奈良朝の末期に誕生した人です。父は当時この地方の豪族で佐伯普通（さえきよしみち）と言ひ、母は学問の名家出身で玉依（たまより）と言ひます。大師は幼名を真魚（まお）と言ひ後に空海（くわい）と改めました。

### 【仏の道を選んだ大師】

大師は18歳で大学へ入学するが、それまで母方の叔父にあたる阿刀大足（あたらおわたり・桓武天皇の皇子の侍講をつとめたほどの大学者）と言ひ人を師と仰ひて経書、史書、仏書等について教えを受けました。大学を出てからは高官になるより、仏の道を選びました。大足と言ひ大学者の影響を多分に受けたためと言ひるよひです。

### 【どんな事をした人か】

- ※ 幼少の頃から夢に諸仏と語られたと言ひわれている。
- ※ 大師は19歳の時から阿波の大滝獄、大平洋の怒涛さかまく室戸岬、四国最高峰石槌山などで、朝な夕なに雄大な大自然の生命と深く触れ合いながら厳しい修業続けました。
- ※ 22歳の時には奈良の東大寺で具足戒と言ひ名譽な位を受けました。その後、一人前の僧となり名を空海と改めました。
- ※ 24歳の時「三教指帰」（儒教、仏教、道教の趣旨）を三巻書き上げました。

※ 31歳の時は留学のため20年の予定で唐の国（今の中国）に渡るのです。苦しい旅の末、長安の青竜寺で生涯の師と言うべく中国第一の高僧、恵果和尚に会うのです。大師を迎えた和尚は、これこそ我が密教を伝えるべき人であると深く喜ばれ、僅か半年の間に「真言の大法」をことごとく授けたのです。しかし和尚はまもなく亡くなってしまいます。その際和尚は早く日本に帰って密教を天下に広めて人々の幸福を増進するようにと遺言されたそうです。この遺言によって大師は留学の予定を変更し2年の留学で膨大な密教経典、その他の書を持って帰国し、高野山で修業を続けながら「真言の秘教」を天下万民のために広め多くの人たちを救ったのです。

※ 48歳の時、水不足に悩む農民のために農民を指導して日本一の溜池「満濃池」を造った事も有名です。

※ 書道に秀でていられ書道の名人としてその壁を破る者はいない。

※ 中国語にも通じた大学者で、一般の子弟のために日本で最初の学校（綜芸種智院）を創設した人でもあります。

#### 【八十八箇所】（札所と呼ぶ）

大師が19歳のときから修業され四国各地を巡るもので、心身を鍛練し病気を治す現世利益のために開かれた霊場（神聖な場所）です。第一札所は徳島県の霊山寺で、大師の発心（仏の悟りを得ようと心を起こすと）の道場と呼ばれ、お遍路（祈願のため八十八箇所を巡る人）さんはここで装束を整え不殺生、不倫盗、不妄語、不邪淫等、十善戒を授けられて出発する習わしとになっています。

※ 徳島県は1番～23番まで、高知県は24番～39番まで、愛媛県は40番～65番まで、66番は徳島県の愛媛県寄りに、最後は香川県で67番～88番まで、88番は大窪寺で大師が四国八十八箇所を開設する間所持していた三国伝来の錫杖を納めて八十八番の詰願所とされました。お遍路さんはここで杖を納め霊場を無事参拝できたことを大師に感謝します。

## 【行事その他】

- ※ 大師の生まれた日（宝亀5年6月15日）を大師誕生会と言って毎年6月15日に行事を行います。
- ※ 亡くなられ日（承和2年3月21日）を大師講と言って毎月21日にご尊影をかかげおつとめをします。
- ※ 大師は一生独身で62歳で亡くなられました。
- ※ 弘法大師の名はおくりな（僧侶の死後その人の生前の行いをほめたたえて送った名）で天皇から賜ったものです。
- ※ 大師のことを真言の付法（ふほう・師が弟子に教法を伝授して後に伝えさせること）八祖と言ひ、伝持（でんじ・仏教で法を受け伝えて維持すること）の八祖ともいいます。又 平城天皇の許しを得て真言宗を開教したことから「真言宗の元祖」とも言われている。
- ※ 弘法にも筆の誤り。弘法大師のような書道の名人でも書き損じをすることがある。（ことわざ）
- ※ 弘法大師ほど総ての人に敬慕され親しまれた人は日本にあるまいと言われていました。参拝者は日本はもとより外国からも訪れその数は毎年100万人近いと言われていました。（終わり）

★ 寒さ厳しい折り、どうぞお体を大切にお過ごし下さい。

（香川県にて・早坂）



## 病は気から

腎友会 協立病院 竹内 昇

最近家に帰るのが、とても楽しみになった。玄関を入ると、チビがかわいい声で『ニャーン』と迎えてくれるからである。そして、体をすり寄せてきて、歓迎のあいさつをしてくれる。ところが気が向かない時もあるらしく、そんな時には出迎えは無論のこと、鳴きもせず、ふり向きもしない。まったくの知らんぷりを決めこんだのである。それが又、かわいいのだ。だから、家に入るとき、何気なくチビの機嫌が気になり、そのことが帰宅を楽しむにさせてくれる要因になっている。

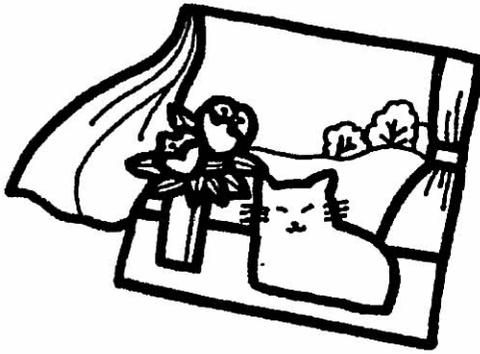
まん丸の目、グレーの毛並み、優雅な動作などからみて、チビは立派な血統証付の猫に見える。だが、チビの出身は野良である。今年の夏に、どこからともなく現われて、エサをねだるようになり、物置を寝ぐらにして住み着くようになった。ところが、チビのおなかが大きくなり、おしりが赤くただれ、食欲がなくなり、元気がなくなったのである。いくら野良とはいえ、物置の借家猫を大屋としてみすてることはできず、家族が診察した結果、『胃腸と痔を患っている』という診断になり、さっそく、胃の薬を口におしこみ、痔の薬をおしりにすりこむなどの治療をほどこした。すると、どうしたものか、3日目あたりから効果が現われるようになったのである。ほっと安心する間もなく、今度はお産の準備が待っていた。産室をこしらえ、栄養をつけるうちに、チビはかわいい子猫を5匹出産した。いくらなんでも6匹の猫に借家させることは、近所迷惑にもなり、ペットショップに引き取ってもらうことにした。かわいいうち

に里親を捜してやるのが、子猫のためになり、強いてはチビのためにもなると考えたからである。

ところが、野良で育ったチビにとっては、あくまでも自分の手で獣身的に育てたかったとみえて、子猫がいなくなったとたんに、血まなこになって捜し始めた。次の日も、又次の日も、チビはあきらめなかった。ついに声はかすれ、連日の疲れも重なってやつれはてみるからに孤独そのものであった。なんとかして慰さめてやりたかった。しかし、どうしてやることもできなかった。せめてしてやれることといえば、孤独なチビを家族の一人として同居させることしかなかった。

チビの入籍を決意した日、さっそく入浴させ、赤い首輪をつけてやった。みちがえるようになったチビは、野良という厳しい環境で育ったためか、家族の一員となったあとも、決してハメをはずすことはなかった。おもしろいことに、魚はほとんど食べようとしないだからお膳を出しておいても一向に近寄りもせず、取ろうともしない。尻の仕末も、外に出てきちんとすませてくるのである。ねずみを獲ったし、スズメは4羽捕獲した。そのためか、最近ではスズメがあまり寄りつかなくなった。これは残念なことであるが、スズメをかわいそうな目に合わせなくてすむので、良いことなのかも知れないと思っている。

チビは3才とまだ若い。だからよくじゃれて遊ぶ。特に『チクワ』とは遊び相手として相性が合うらしい。手袋をして武装して遊んでやるのだが、むしろ人間の方がよい運動に



なる。チビの方でも、あきもせず楽しそうに遊ぶ。ところが、出迎えのあいさつ同様、あまり気乗りのしないこともある。気まぐれというか、気難かしいというか、人間様の方が猫の御機嫌をうかがうはめとなる。

動物学者に言わせると、『人間を誤解しているのは犬』で、『人間が誤解しているのは猫』だそうだ。なるほど、言われてみると確かに思いあたるふしがある。犬は飼い主に絶対服従するが、猫はいかに飼い主といえども、自分の気が向かないと人間になつこうとしない。

不思議に思うことは、犬なら芸を覚えるが、猫は芸をしない。いくら教えても覚えようとしなない。だからサーカスにも登場しないのかも知れない。唯一することといえば、『バケ』で出るくらいのものである。家のチビにも教育するが、一向に覚えようとしなない。わずらわしいのだ。だから教えようとすると手をかじって逃げようとする。逃げるのだけは早い。あまりしつこくすると、お礼参りをする。家の中の花を折ったりするのだ。これだけは野良の習性というか、ヤクザな根性が身につけてしまったらしい。ただ、近所の魚を取ってこないことだけは安心できる。

不思議なことの二つ目は、たかが猫とは言いつれぬ何か、猫にはあるということである。なぜならば、家にチビが同居するようになって以来、家の中の雰囲気が変わったからである。話題が豊富になり、家の中の娯楽が

一つ増えたことも確かだ。なんとなく家族の一人と思えるようになるから不思議である。

チビの御機嫌をとり、チビと遊ぶことを通して、何かしら心がさわやかになり、心が洗われるように感じる。『病は気から』とは昔の人はよく言ったもので、『病を気』で治せない不治の病ではあっても、『病に負けない心』を持つことはできる。おおらかな気持で、何事にもチャレンジしていく心がけこそ、我々腎臓病患者には必要なことではなかるうか。

花を見、樹を見て、美しいものを、美しいものなりの見かたができる心を持ちたいものである。同時に、安心して治療を受けることができ、安心して働かせてもらえることにも感謝し、国の福祉政策や、医学の恩恵に欲することのできなかった昔の人の苦渋にみちた体験からにじみ出た『病は気から』の実践を、真摯な気持で我身の励みとしたいと思っている。



## 会員の動向

### ◎新患者

・藤木友子

釧路市

・佐古

・林下チヨエ

釧路市

・木村昭二

浦幌町

・安藤国明

釧路市

・佐藤 郷

白糠郡

・芦田 勝

釧路市

・斉藤

### ◎新会員

・藤木友子・日赤・62年2月より

・安藤国明・協立・62年3月より

・斉藤 協立

### ◎変更事項

・高橋勇吉・日赤・61年9月で脱会

・佐藤春男・日赤・62年1月18日死亡

・佐古 協立・62年1月23日死亡

### おわび

毎回好評のクロスワード  
パズルは、誠に勝手ながら  
都合により休ませて  
いただきました。  
次回をお楽しみに！！

編集部

